



新年の挨拶



上條 温
町会連合会
相談役

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

コロナ感染症のまん延が始まってから早くも3年が経ちます。この間感染拡大を避けるために、神林においても各種の集会や行事が中止になりました。中止になってみて改めて日頃の人と人とのお付き合いが、いかに私たちの心に潤いと活力をもたらしてくれているか再認識する日々です。昨年は役員の皆様が工夫して「神林ふれあい文化祭」を実施していただきましたが、今年こそいつもの神林に戻す取り組みを、一歩ずつでも進めて行きたいものです。



卯年の今年、地区の安寧と皆様のご健勝を祈念いたします。



渡辺 賢夫
町会連合
会長

新年あけましておめでとうございます。

コロナ感染が収まらない中ですが、新しい気持ちで令和5年を進めていく所存であります。感染対策の下で今まで当たり前に行われてきたことが大きく見直されています。変革に新たな気持ちで取り組みたいと考えます。神林は空港活性化対策への地元協力と産業廃棄物処理施設の周辺環境の取組に大きな変革を進めています。これからの未来に向けたキッカケになるよう皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。コロナ禍にあつて皆様が健康で明るい年になるようお祈りいたします。

令和5年1月1日現在	2,016世帯
総世帯数	4,795人
総人口	2,370人
男	2,425人
女	



伊藤 裕明
神林地区
地域づくり
センター長

明けましておめでとうございます。神林に着任して3回目の新年を迎えました。ウィズコロナの時代となりましたが、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、人と人をつなぎ、「顔の見える」「共に支え合う」関係づくりに精一杯務めていきたいと思っております。



丸山 勝久
神林
公民館長

地域づくりセンターでは、活発な公民館活動と、笑い声の絶えない福祉ひろば事業を実施するとともに、出張所窓口は温かく皆さまをお迎えいたします。本年もどうぞよろしくお祈り申しあげます。

雪解けて村一ぱいの子ども哉
雪解けのよろこびを詠った小林一茶の句です。幸せな情景が浮かびます。昨年コロナ禍でしたが、50周年記念文化祭を盛大に開催できました。記念誌も、関係者の多大なるご尽力により間もなく発刊さ

れます。公民館事業がまた力強く開始されます。昨年暮れに「館長として、何のために事業を行うのか」問われました。私は、「平和・文化・教育をキーワードにし、神林の人々の幸福のためです。」とお答えしたいと思います。



令和5年新年祝賀会

キーワードはなに？

本紙神林版の記事内にキーワードの文字が散りばめられています。見つけて言葉にしてください。わかった方は神林公民館に備え付けの用紙に必要事項を記入してご応募ください。アンケートにお答えいただいた正解者の中から抽選で5名に500円分の図書カードをプレゼント！締切は2月24日(金)、当選発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。多数のご応募お待ちしております！

【前回の答え】

ワールドカップ

【今回のキーワード】

〇〇〇〇〇

鎖川

横断歩道を渡ろうと歩行者が待つため、車を一時停止した。歩行者は安全を確認し、歩を進めた。横断が完了する間際、自転車が入る。自転車は、道路交差点では軽車両に位置づけられている。歩行者は、他の乗り物ほどいない状況だ。歩行者と同じ感覚で使用していれば、被害者にも加害者にもなってしまう恐れがある。手軽さ故の危

- ① 自転車利用五則がある。
 - ② 車道が原則、左側を通行
 - ③ 歩道は例外、歩行者を優先
 - ④ 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
 - ⑤ 夜間はライトを点灯
 - ⑥ 飲酒運転は禁止
 - ⑦ ヘルメットを着用
- 他にも大切なルールがある。安心安全な街を作るために努めていかなければならない。罰則があるから守るのではなく、命を守るために遵守を。

人権啓発の視察研修

神林地区人権啓発推進協議会視察研修が12月7日(水)関係者を含め15名の参加者にて開催された。山梨県北杜市にある「浅川伯教・巧兄弟資料館」へ行き、朝鮮工芸の美を日本に紹介した浅川兄弟の生い立ちと業績について館長から説明を受けた後見学した。

時代背景として明治時代、韓国は近代化への道を歩み始めたが日本は外交権を奪い韓国統監府を置いて実権を握り、軍隊を解散させた。兵士や農民は抵抗するも、1910(明治43)年、軍隊の力を背景にして植民地にした。そんな中、高根町出身の浅川兄弟は朝鮮半島で生活し、朝鮮人の立場で朝鮮を捉えようとした数少ない日本人である。

兄の伯教は小学校教諭でしたが朝鮮の芸術にあらがれて、1913(大正2)年朝鮮半島に渡り、朝鮮古陶磁の窯跡を調査し朝鮮白磁のすばらしさを日本に伝えている。陶磁器の研究成果は朝鮮王朝陶磁史の基本文献とされている。弟の巧は翌年兄を慕い林業技師として渡り、風土に合った育苗法を開発するなど統治



により荒廃する朝鮮半島の緑化に尽力した。兄と共に陶磁器研究をし、木工品などの民芸品等を日本で紹介している。兄弟が残した書物や日記、朝鮮陶磁器・生活道具など貴重な資料が展示されていて、弾圧されていたであろう朝鮮において植民地化への異を唱え、朝鮮芸術や文化を守り抜いた日本人がいたことを知ることが出来た貴重な時間だった。

資料館を出て山梨名物「ほうとう」を食べ、諏訪湖畔にある「原田泰治美術館」へ向かった。人と風景を描いた作品の数々が展示されている。地元出身の原田さんは一歳の時小児麻痺をわずらい歩行困難という、生涯ハンディを負いながら昨年の春他界されるまで55年間描き続けた。ふるさと信州の四季や日本各地の田舎の素朴な風景画は安らぎを与えてくれた。

菅野中学生の新聞作り体験

11月10日付MGプレス9面の「松本平中学生新聞」の「時代に合った新制服」と「クラス団結心ひとつに」の見出しで菅野中2年生が職場体験学習し編集した記事が掲載された。

これは10月27、28日2年生154人が市内42の事業所に分かれ体験学習した。その中で宮田世夏さん、松田空樹さん、吉澤批吹さんは、MGプレスを訪れ、取材記事、紙面の割り付けなど新聞作りの流れを体験して、編集した。この記事を見て今時の中学



生は新聞や公民館報にどの位興味、関心を持っていくかを含め、菅野中を訪れ、先の3人の内宮田さん、吉澤さんと重盛究教頭が立ち合い、取材として、宮田さんは「取材が大変だという事を知りました」吉澤さんは「紙面になって、多くの市民が見ているという事で参考になり、将来のことを考えるのに良い体験になった」と話した。

かつて中学生の学習の中で職場体験学習というものは無くいわば新しい指針である。その中でも中学生が様々な事を学ぶ場があり、そこから見える中学生の感覚に触れる事

ができるものであると感じる。公民館報は読んでいるか、との問いには2人とも読んでいないと、手前であつた11月号の館報を見ながら答えた。今後の館報の編集に課題を与えられた形となった。



今年の成人者 (20歳)

◆川西町会

筒井美波さん、塩原結花さん、市川真優さん、筒井幸菜さん、南愛花さん

◆川東町会

古畑真愛さん、水野一輝さん、南波遥さん、原颯汰さん、奥原亜美さん、小川紗矢花さん、塩原瑞香さん

◆寺家町会

日原大樹さん、簗町希羽さん、安田楓夏さん、深澤安純さん、加藤駿一さん、勝野桃妃さん

◆南荒井町会

関詩織さん、逢澤直希さん、伊佐治拓也さん、小林花音さん、小林巧菜さん、北澤飛翔さん、金子虎牙さん、原野朱莉さん、石川綾菜さん、長澤亜門さん、藤牧純さん、福岡胡桃さん、大森美月さん、山口飛鳥さん、嶋原結さん

◆町神町会

石川英守さん、丸山亜瑚さん、加藤鳩希さん、丸山晃也さん、東大志さん、一之瀬明希さん、川端衣千花さん

◆下神町会

牧野匠さん、磯部泰地さん、畔上凧さん、百瀬凌さん、田中颯斗さん、倉科里咲さん、中條雄太さん、笹山葵さん

◆梶海渡町会

塩原麻弥さん、小松実夢さん、塩原心空さん、小松直生さん